

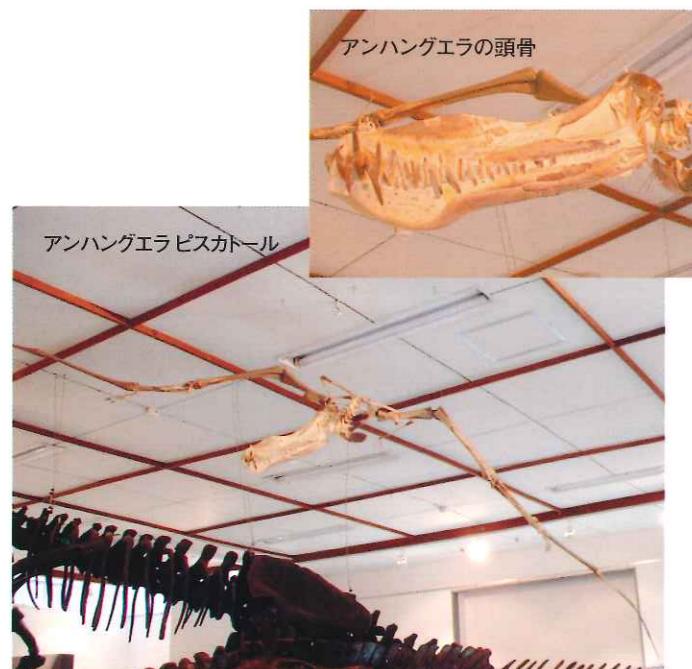
アンハングエラ ピスカトル

Anhanguera piscator Kellner and Tomida, 2000

アンハングエラは、白亜紀初期の南アメリカに生息していた大型の翼竜です。ブラジル北東部のトウピ族の言葉では、「昔の悪魔」という意味になります。アンハングエラという属には、5種が知られています。アンハングエラ属の中では、このピスカトルという種が最大で、翼幅は約5mあります。

この標本は、東京の国立科学博物館が所蔵しており、平成11年度に国立科学博物館の許可をいただき、レプリカを製作することができました。複製も、実際の産出部分と欠けていたために復元を施した部分が、わかるように塗色されており、展示はもちろんのこと、研究資料としても役立つ貴重な資料であるといえます。

アンハングエラは、頭骨の上のトサカが特徴です。あごには、長くて鋭い歯がならんでいます。上あごと下あごの歯がたがいちがいになるようにかみ合わります。このような歯は、魚を食べる水生ハム類によく見られるので、アンハングエラも魚をえさとしていたと考えられます。普通、翼竜の骨は飛ぶために軽量化が進んでいて、もろく壊れやすいのですが、ブラジルからはすばらしい状態の翼竜化石が数多く発見されています。



豆知識

学術目的で使う名前<学名>

私たち「ヒト」を含めて、動物には、「国際動物命名規約」という約束にしたがって学名が与えられています。種の名前は、属名と種小名によって表します。例えば、ヒトの種の学名は、*Homo sapiens*となります。(属名) (種小名)

例えばティラノサウルスは、正式には、

属名	種小名	命名者	命名年
<i>Tyrannosaurus</i>	<i>rex</i>	Osborn,	1905
ティラノサウルス	レックス	オスボーン	

と書き表します。

ミネリュウのように、日本で使われている〇〇リュウという名前は、このような学名ではなく、俗名と呼ばれるニックネームです。学術目的で使う名前ではありません。



記事募集のお知らせ メールやFAXでもOK!

「ダイナソートピックス」編集室では、次のようなテーマで記事を募集しております。原稿の形は、手書き、ワープロ文書、写真、絵、デジタルデータなど、何でもかまいません。

テーマ

「私が考える博物館の姿」

私たちの町の、私たちの博物館。
こんな場所であってほしいという思いを…。

「御船町の自然のよかところ」

家の近くの川には、こんな生き物がいるよ。
家の近くでこんな石を拾ったよ。などなど。

「私が撮影した自然・科学写真」

風景、山、地形、星、植物、動物、

このほかにも、博物館に対する提言、話題提供、研究ノート、記事など広く募集しております。多数のご投稿をお待ちしております。

御船町恐竜博物館情報誌
ダイナソートピックス No.2

■発行日／平成13年12月15日

■編集・発行／御船町恐竜博物館

〒861-3207 熊本県上益城郡御船町大字御船995-3
TEL (096)282-4051 FAX (096)282-4157

<http://www2.ocn.ne.jp/~dinomuse/>

Email/dinomuse@theia.ocn.ne.jp



印刷／株)トライ

御船町恐竜博物館情報誌 ダイナソー トピックス

Dinosaur Topics

No.2
2001.12.15

御船層群

恐竜化石発掘調査

たくさんのおおきい骨化石を発掘!!



▲発掘調査のようす



▲天君ダム近くの発掘現場

コンテナ30箱分!!

8月23日から30日にかけて、天君ダム近くの恐竜化石産地で、発掘調査が実施されました。暑い中、ガケに日よけのシートをかけて作業が行われました。

今回発掘したのは、ガケの中央部約5平方メートルの範囲。電動の削岩機ですこしづつ岩をわっていくと、われめに骨の化石が見えてきます。それ以上こわさないように、接着剤で固めて、印をつけて、博物館へ持ちかれります。

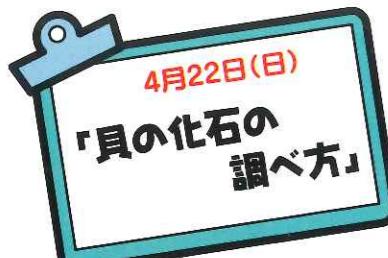
約1週間の調査で、コンテナ30箱分の化石を含んだ岩石を採集しました。

来年の調査まで、1年間かけて化石のまわりの岩をかけるクリーニング作業がおこなわれます。今年は、どんな発見があるでしょうか？



▲今回の調査で発見されたおおきい恐竜の骨の化石

うでの骨の関節の部分のようです。5メートルをこえる大きい恐竜かもしれません。



4月22日(日)

「貝の化石の調べ方」

「貝の化石から大昔のことを学ぼう」と、37名の参加がありました。

まず、化石が含まれている御船の地層や地球の歴史について、カルチャーセンターで説明を聞き、その後、化石ひろばへ移動です。

ハンマーで石を割り、9000万年もの間、かたい石の中に閉ざされていた貝の化石を見つけては、「わあ!ほんのだ!」と、感動の声。岩の中に化石が集まって入っているようすも観察して、化石探しのコツも少しつかってきました。

午後は、採集した化石をカルチャーセンターに持ち帰り、貝化石の調べ方の勉強です。アサリやシジミなど、二枚貝の殻には、左右や前後があり、その見方を知ってさらに感動。今度アサリのおみそ汁を食べるときには、みんなに教えてあげられそうです。

「化石をはじめてみた!」「今まで知らなかった二枚貝の見方を知ってちょっと得した気分」「また、参加したいです」と、それぞれに有意義な時間を過ごされたようでした。

7月
22日(日)「きょうりゅうの郷みふね
夏休み化石教室」

恒例となりました夏休み化石教室は、今年も町内はもとより、県内外からたくさんの方々が参加されました。

「夏休みの自由研究にと思い参加しました」と、市内から参加の親子。「きょうりゅうをみつけてくる!」と言って、はしゃいでいた男の子。「暑い!暑い!きつかーっ!」と、言いながらも親子で体験できることに、満足そうな顔を、チラッと見せられたお父さん。参加者みなさんにとって、学習の場、夢のある場、家族のコミュニケーションの場にもなる化石教室は、恐竜の郷・御船町の魅力あふれる恒例行事のひとつになっています。

今年は、大発見がありました。なんと、化石広場からはふたつの、ワニの歯の化石が発見されたのです。化石を発見したのは、御船町滝尾の緒方良成さんと杏亮くん親子。石と同じ色をしている1センチくらいの小さい歯に、化石を見せられたスタッフもびっくり。ずんぐりとした形をしているので、口のおくの方にはえていた歯のようです。

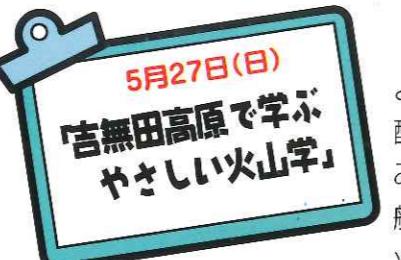
この日は、化石採集のほかに、ワークショップ(レプリカ作り、ペーパークラフト、折り紙)もあり、化石発見の喜びと、作品の完成の喜びに、笑顔がいっぱいの楽しい1日でした。

▲緒方さん親子が発見した
ワニの歯の化石平成13年度の
セミナーの予定

※各セミナーは参加申し込みが必要です
※1ヶ月前から参加の申し込みを受け付けます。

第7回 2月 3日(日) ペーパークラフト

第8回 3月24日(日) 「恐竜の体ってどんな色?」模型づくり

5月27日(日)
吉無田高原で学ぶ
やさしい火山学

どんよりとした曇り空。今日のような野外観察には、ちょっと心配な天気です。しかし、参加者のみなさんは、お天気はよそに、御船町の自然の歴史の中で、阿蘇の火山活動はどのような影響を及ぼしたのか、吉無田高原周辺に残された火山の活動の歴史を学ぶのに真剣でした。その後、火山灰を持ち帰り、観察学習です。

おわんで洗っていくと、ざらざらとした粒が残ります。それを、顕微鏡で見ると、「わあきれい!宝石みたい」と大喜び。キラキラとした“宝石”のような鉱物が見えるのです。「火山灰によって、中に入っている粒もちがっていて、何年前かということわかるなんて、おもしろいですね。」と新しい発見に満足されたようすでした。

火山灰にもいろいろな色がありますね。



修了

博物館には学芸員という専門的な仕事をする人がいます。学芸員の資格を取得するためには、普通、博物館での実習を受けることになっています。

7月25日から8月5日まで、北里大学獣医畜産学部4年生の金原 彩さん(熊本市出身)が、当館初の実習生として、実習に取り組みました。

学芸員の仕事は、調査研究・資料収集・整理収蔵・展示・教育活動と非常に多岐にわたり、これに、館の維持管理も加わり、その仕事ぶりは、「雑芸員」と評されることもあります。しかし、学芸員によって博物館は決まるとも言われ、博物館の中では、重要な役割を担う存在です。

今回は、この学芸員の仕事を、調査研究から教育活動まで、テーマを決めて、ひととおり取り組んでもらいました。もちろん、11日間で、完成する仕事ではありませんが、あたえられた作業をこなすだけでなく、目標に向かって、自ら考え試行錯誤しながら努力していくことから得るものが多いと考えています。

金原さんが決めたテーマは「河原の石」。猛暑の中での御船川のれきの調査に始まり、岩石薄片作成、展示作成、展示解説などに取り組みました。

実習を終えての感想を紹介します。



これでいいかな?

▲制作した展示と、展示解説

博物館実習を終えて

北里大学獣医畜産学部4年 金原 彩

11日間の実習でしたが、最終日まではあっという間でした。毎日新しいことばかりで毎日が勉強でした。

実習初日に学習内容の予定を立て、“テーマを決めて計画・調査・展示を行う”ということになりましたが、本当に最終日に展示を行うことができるのか不安でした。

いろいろと内容を考え、「石」をテーマに岩石の採集、薄片作成、ハンズ・オン展示を行うことにしました。けれどもすべて初めてのことだったので学芸員の先生に相談をしながら、ひとつずつ学びました。

私はどのことを行うにも、「どういうふうにすれば、子ども達にもわかりやすく興味を持ってもらえるものになるだろうか」と考えるようになりました。

最終日の展示では“河原のいろいろな石”を紹介することにしました。しかし「ただ石を展示するだけではおもしろくない!」と思い、石をわざと割ってパズルのようにして遊びながら考えることのできる展示にしました。子どもの立場になって考えたとき、パズル

だったら楽しいなと思ったからです。

紙粘土で石の型を取るときや展示の仕方で失敗しましたが、最終日には納得いく展示をすることができました。

実習の前半は博物館への来館者と接する機会はありませんでしたが、最終日の展示の時にはたくさんの子ども達と接することができました。私の展示物に興味を持って遊んでくれていたので、とてもうれしかったです。

子ども達は「どうしてこうなるのだろう?これは何?」という気持ちをたくさん持っていました。常に学芸員や説明してくれるスタッフがいて、その疑問に答ええてあげることができればいいのですが、スタッフが不足している博物館などではそれが難しいのが現実です。

でもこれからはただ展示をするだけの博物館ではなく、わからないことがすぐわかったり、自分で触ったり考えたりすることのできる博物館の必要性を感じ、同時にそれを作っていく学芸員の重要な役割をこの実習で改めて感じました。



御船町恐竜博物館 イーe会員募集中!

御船町恐竜博物館では、行事案内や博物館の最新ニュースをみなさまに電子メールで受け取ることができる、e会員を募集しております。入会金、会費等は無料で、申込方法はとても簡単。下記アドレスまで、メールをお送りください。お送りください。結構です。

(Email) dinomuse@theia.ocn.ne.jp